柏崎地区納税貯蓄組合連合会長賞
『私たちの生活を支える税金』

柏崎市立瑞穂中学校　三年　長澤　心美

私はこの作文を書くまで、税金のことがよく分かりませんでした。ニュースなどで消費税や増税という言葉を聞くけど、自分の生活と税金がどう関係しているかは、あまり意識していませんでした。税について調べてみると、私たちの身近なところで税金が使われていることを知り、考え方が少し変わりました。

私たちが毎日通っている学校にも税金が使われています。教室や校舎などの施設、学校で使うさまざまな設備など、私たちが当たり前のように利用しているものにも多くのお金が必要になります。また、道路の整備やごみの処理、消防や救急などにも税金が使われています。当たり前にあるものと思っていたけど、誰かが費用を負担しなければ成り立たないものだと気づきました。私は特に、消防や救急のことを考えて税金の大切さを感じました。もし急に事故や火事が起きたとき、必要な人がすぐに助けてもらえるのは、とても大切なことだと思います。自分が今まで救急車を利用したことがなくても、いつ必要になるかは分かりません。自分だけでなく、家族や友達など、誰かが困ったときにも必要になるかもしれない、このように考えると、税金は自分が直接使っていると感じなくても、社会全体を支えているものなのだと思いました。

一方で、税金を納めることには負担もある。特に消費税は、買い物をするたびにかかるので、私たちにとっても身近な存在だ。税金が高くなると生活が大変になる人もいるため、「税金は少ない方がいい」と思う人がいるのも当然だと思います。しかし、税金がなくなったら、今まで当たり前だと思っていた公共サービスを維持することが難しくなるでしょう。だから私は、税金はただお金を取られる仕組みなのではなく、みんなが安心して生活するために必要なお金を、社会全体で支え合う仕組みなのだと考えるようになりました。これから私は、今までよりも税金について関心を持ちたいと思います。今はまだ税金を納める立場ではないけど、将来働くようになれば、私も社会を支える一人になります。そのときに、税金について何も知らないままではなく「自分のお金が社会のどこで役立っているのか」を考えられる大人になりたいです。

税金は、普段は目に見えにくい。しかし、学校、道路、消防、救急など、私たちの生活のさまざまな場面で私たちを支えています。今回税について考えたことで、今まで「当たり前」だと思っていた生活は、多くの人の支えによって成り立っているのだと気づきました。これからは、税金を遠い存在だと思わず自分たちの暮らしと社会を支える大切なものとして考えていきたいです。